

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號五第 卷五十第

行發日一月一十年一十正大

論叢

交通税の長短 法學博士 神戸 正雄

傳統派の社會連帶思想 文學博士 米田庄太郎

社會哲學に於ける主意的二元論的思想 法學士 恒藤 恭

經濟道と經濟術 法學士 作田 莊一

時論

我國の人口對食糧問題 法學博士 山本美越乃

食料品市場問題 法學博士 河田 嗣郎

資料

金輸出解禁問題 法學博士 戸田 海市

雜錄

戰爭と道德の原則 法學博士 財部 靜治

物價引下策と抽籤景品附賣買 法學博士 小川郷太郎

排マルクス說の新刊書一二について 法學博士 河上 肇

日銀兌換券發行高の季節的變動 法學士 沙見 三郎

食料品市場問題

河田 嗣 郎

一 市場設置の可否

一般物價騰貴の爲めに種々の困難が社會生活上に表はるゝ中に在つても、食料品の價格騰貴は其の影響の及ぶ所が最も直接で、又人々の生活費の項目中食料費の占むる歩合は、中流以下の生活を爲す者に於ては、最も多大なるが爲めに、其の騰貴の状態を緩和せんとする希望と努力とが現今諸國に於て大に行はれて居る。そして問題はたゞ一時的なる物價調節上の問題として考へられるのではなく、常時の問題として講究せられて居る。換言すれば、食料品の價格が異常に高いから、之を引下げねばならぬといふばかりではなく、食料品の價格をして正常的なる構成を見るを得せしめ、然かも其の正常價格の構成に於て、不必要なる成素を除却して、生産消費の結合上、必要なる成素をして十分なる働を爲すを得せしめんとすることが、問題の中心を爲す次第である。

獨り食料品ばかりではなく、何れの種類の種類に就いてもさうであるが、其の市場價格の構成をして正常的なるを得せしめんが爲めには、其の需要と供給との状態をして各々よく整つたもの

たらしむるを要すると同時に、特に其の需要と供給との適合状態をして十分整頓せるものたらしむるを必要とする。而して此の需給の結合状態を整へるといふ一段になれば、問題はとうして中間商業の問題に觸れざるを得ざる次第であるから、一般物價調節の問題や食料品價格調節の問題やは、常に中間商業整理の問題と關聯せざるを得ない。そしてそれは本誌前號に於ても之を論じたやうに、中間商業過多の爲めに生ずる賣買上の冗費を省略するといふことを以て眼目とし、其の方法に關することが即ち實行策として講究せられることとなる。

當今食料品市場に關する問題が、我國に於ても又米國などに於ても、熱心に考慮せられつゝあるは、即ち右の如き理由からである。而して其の意義は、中間商業を省略する一手段として、公の設備としての市場を造り、生産と消費との結合をして成るべく簡便に行はしめ、冗費を省いて食料品の價格を低廉ならしむると同時に、其の品質重量等の公正を計り、食料品配給の状態を整頓せる然かも有效なるものたらしめんとするに、存すること、絮説を俟たざる所とする。

されば食料品市場の問題は、たゞ理論的に之を致ふれば、甚だ簡明なるもので、其の實地施設の有效に行はるゝ限り、例へば都市が公設の中央卸市場及び多數の小賣市場を設けて、一面には生産者の利益を顧み乍ら、他面に主として消費者の利益を圖ることを爲すは、最も適當なことで又大いに歓迎すべき所と謂ふの外はない。然かも問題は我國に於てこそ事新らしけれ、歐洲諸國

に在つては、既に半世紀も前から實行されて居る次第で、其の實際の效果に就いてこそ彼れ此れ議論もあれ、又之に代るべき更に有效なる施設についてこそ講究もせられて居れ、其の設置の可否等に就いて、議論の行はるゝ時期は、多くの昔に過ぎ去つてしまつたのである。たゞ併し乍ら當今我國に於て之が設置特に中央卸市場設置の議が、實地の問題となつて居るが爲めに、歐洲諸國に於ける從來の經驗と實際の成績とは、鮮からず參考とならざるを得ざるものとする。

二 歐洲諸國の實地經驗

食料品市場設置の問題や、其の設備完成の問題やは、其の實際の效果が十分に擧がり得るものたる限り、議論として其の不可なるを道ひ得べきものにあらざることば、上に示す通りである。たゞ併し乍ら、其の實際の效果奈何といふことが、實は最も重大なる點であつて、其點に關する十分なる攷究の行はれざる限り、問題は實は可否何れとも論定し難きものたるを免れぬ。而して若し其の實際の效果が從來の實例に於て十分なるを得ざるものたるあらば、理窟の上で考へて、公の市場を設置するといふことが、食料品の需給調節上如何に有效に見ゆるものであらうとも、之を實施するに就いては慎重の上にも慎重の考慮を要する。

そこで今吾々は此の實際の效果奈何について考へて見なければならぬのだが、之を攷ふる爲め

に、暫く、歐洲諸國に於ける從來の經驗を顧みることとする。

歐洲先進國の中に在つて公の市場設備に於て最も著名で又古くから其の施設の行はれて居るのは佛蘭西である。即ち巴里の中央食料品市場は其の現存の建物十區の中最初の建物は一八五七年に開設され、大部分は一八七〇年前に出來上り、最後のものも一八九八年の建設である、そして此の中央市場はその凡そ三分一は小賣の爲めに用ゐられ、中には二百八十三ばかりの賣場があつて、主として女が其所で業務を營むで居る。卸賣の方には商人が二種類あつて、問屋業者と仲立業者とに分れて居り、前者百五十四人後者四百三十七人となつて居る。此等の商人は何れも皆盛なる賣買取引を行つて、中央市場は巴里の食料品供給機關としては頗る大いなる働を爲して居るが、然し實際に於ては此の中央屋内市場の構外に接續せる市街に、何時とはなしに漸次に發達して來た街上取引の方が、今では却つて大いなる働をするやうになつて、巴里の中央市場といへば、實は此の屋外のものゝ屋内のものを一緒にしたものを意味するやうになつてしまつた。そして屋内市場の卸取引は衰頽はせぬけれども、巴里人口の増加する勢に比較すれば其の發達の及び難いものがある。つまり比較的の意味に於ては稍々不振といひ得べきであつて、其の不振の原因は、市場外の賣買の盛に行はれること、生産者と商人との間に直接取引が段々盛に行はれるやうになつたこと、生産物取引所に於ける取引が盛に行はれること等に由つて、中央市場を經由せ

ない賣買の多大なるに存すとせられて居る。けれども要するに中央市場の方はかなり有效なる働を爲しつゝあるものと謂ふことが出来る。たゞ併し忘るべからざることは、本來の屋内市場より却つて商人が自由に之を行つて來た市場接續の街上取引の方が主位となり、それも同じく中央市場の中には包含されて居るけれども、やゝ主客轉倒の風あることである。

次に巴里に於ける食料品小賣市場の方は、建物内に行はれる所謂屋内市場は一八六〇年代の建設にかゝり、就中十九市場は市有で四市場は私有に屬して居る。併し此の小賣市場の方は中央市場と異り失敗の掩ふべからざるものがある。従て其所に行はれる賣買は巴里全市の食料品小賣買の一小部分に過ぎないで、他の大部分は依然として舊式な行商賣買と露天市場に於ける賣買である。行商賣買は其の最も幼稚なるものは、女が僅かばかりの商品を籠に入れて消費者の戸々を賣歩くものであつて、然かも其數中々に多く、勞働者階級の間には此道に依る食料品の供給は最も便利なものとして歓迎されて居る。そして其の行商の女には誠實なる者が多く、價格も餘り高くはなく、大した社會的弊害の其間に生ずるものとは認められて居らぬ。此種の行商人よりやゝ優れたるものは手車に商品を載せて賣歩く小商人であつて、此道に依る食料品の賣買も亦侮るべからざるものあり、此種行商人の數凡そ六千乃至九千と註せられて居る。次に露天市場に至つては、巴里の食料品小賣上に於ては最も大いなる働を爲すものであつて、固より私的のもの

のであるが、巴里全市内に此種市場の數三十、其の各市場には各々多數の屋臺店が張られ、其の賣臺は二米突平方を定規とし、其數合計六千三百に及びて居る。そして此の屋外市場は何れも毎週大抵三回位開かれ、顧客は主として労働者階級であるが、其中には又中流の消費者も決して少くない。それが食料品小賣市場として如何に大なる働を爲して居るかは、此の露天市場に於て賣買せられる八百屋物は巴里に於て販賣せられるその總價格の約三分一に及びて居る事實に徴して、之を知ることが出来る。要するに巴里の食料品小賣市場は、私設露天市場の大繁昌に反し、公設屋内市場の失敗を示すものたるを知ることが出来るのである。¹⁾

次に獨逸に就いて見るに、柏林の公設市場は一八八〇年代に其の創設を見るに至つたもので、固より巴里の市場は其の模範とせられたものである。尤も茲に謂ふ所の柏林は中央柏林市を意味するのであつて、シャルロットンブルヒ其他の連續市街地は除外されたものであるが、其の中央柏林市に在つては、公設市場設置の爲めに舊來廣く行はれて居た露天市場は之を禁止し、その代りに中央に一箇所の卸市場と諸所に多數の小賣市場とを建設し、其等は何れも屋内市場であつた。而して中央市場に在つては、卸賣を主とし、然かも之を行ふに就いては、公の監督の下に在る糶賣を行はしむることを以て特色と爲し、六人の免許糶振人をして之を行はしめて居る。即ち糶賣を公正に行ふことに依つて公正價格を造り出し、一方には生産者の利益を衛ると同時に他

1) J. W. Sullivan, Markets for the People, the Consumer's Part, N. Y. 1913, p. 158-191.

方には消費者の利益を圖り、其の糶賣買には小消費者と雖も參加するを得るものとしたのである。其他市場と運輸機關との連絡に就いても色々と注意して施設せられ、此の中央卸市場は兎も角も相當な成績を擧ぐることを得た。

然るに翻つて伯林の小賣公設市場を見れば、其の成績甚だ擧らず、二三の特別なるものを除けば何れの市場も客足の至つて薄い所から、商人にして市場内に店舗を張る者も従て少く、賣場の半分以上は空虛のまゝで賃借人なく、終には市場は漸次閉鎖せらるゝの止むを得ざるに立至つた。仍て今試に此等公設小賣市場の失敗の原因を尋ねるに、其の原因と思はるゝもの多き中にあつて、其の主要なるものと信せらるゝ所は、(一)建物内に在る市場たるが爲めに、元來露天市場に慣れ、市場といへば露天市場のことであるといふ風に考へて居る獨逸の人々(獨り獨逸人に限らず歐洲人は大抵さうであるが)には、公設市場で買物をするのは市場で買物をするやうな氣のせないこと(二)公設市場で販賣をする人々は何れも商人で生産者ならざる爲め、消費者はやはり市場で買ふやうな氣がせず、又商人であつては市場たる效果薄しと信ずること(三)取扱商人に勉強心の足らざること(四)消費組合が發達して小賣公設市場の必要の減せられたること(五)百貨商店が發達して其中に食料品市場を常設し自ら公設市場に對して競争を試むるに至りたること之である。就中最後の事情は公設市場の失敗を齎せる最も有力なる原因と考へられ、百貨商店が専門の商的經營

法を以て、大資本を擁して業務を行ひ、然かも食料品の取扱は、客を引く手段として殆んど利得を眼中に置かないで、之を行ふ次第だから、公設市場は到底之と競争するを得ず、消費者は買物に便利になると、百貨商店の娯樂的設備の整へると、比較的商品の安價なるとの爲めに、同じく買物に行くほどならば、公設市場へ行くよりも百貨商店へ行くといふ風になつてしまつたのである。要するにそんなやうなことで、伯林市設市場に在つても、中央卸市場の方は兎も角も遣つて行けるに對して、小賣市場の方は大失敗に終ること、なつてしまつた。²⁾

次に英國に在つては、元來個人の自由を尊び營業の自由を本則とする國柄なるが爲めに、倫敦市の如きに在つても、卸市場も小賣市場も古くより存する私的の市場や中央倫敦市の監督に屬する大小の市場が設置されて居るばかりで、其の所在に於ても其の所有に於ても、決して集中されて居らぬ。彼の Covent Garden Market の如きは一六七一年に王チャールズ二世が Duke of Bedford に其の開設を許して以來存する大市場で、サッカリーの時代には貴婦人や淑女達が買物と見物との爲めに集り來つて、めかして歩いた所で、派手で繁華な場所だつたさうだが、現今では寧ろ不振で、ハットフォード侯は從來幾度か之を賣物に出して誰も買手がない有様である。其他 Smithfield Market, metropolitan Cattle Market, Billingsgate Fish Market など色々あるが、何れも所謂公設市場の性質を具備したものではない。

2) 伯林市の公設市場に關しては私は先年『食料品騰貴と其影響』といふ題下に京都法學會雜誌上に於て之を論じたことがある。同誌第九卷第三、四、六號參照

そして倫敦の食料品小賣組織に至つては、主としてやはり古來の呼賣式の販賣法に依て行はれ、何人も自由に之を營むを得、之を業とする Costermongers の數は實に夥しきもので、食料品小賣の商權は其の手中に在ると謂つて大過ない。何れにしても倫敦の状態は、所謂公設市場問題に就いて、我國などに於て模範的實例と爲すは適せざるものである。⁸⁾

三 實施上の問題

上に示す巴里及び伯林市に於ける實地の經驗に徴して之を見れば、食料品に關する公設市場は、中央卸市場の方は兎も角も相當に遣つて來て居るが、小賣市場の方は大抵失敗と謂はねばならぬ有様である。そこで我國の如きに於て公設市場を設置する實地問題を解決するに就き、此等の經驗を參考にするといふことになれば、小賣市場の方はよほどの努力を拂はなければ十分なる成績を擧げ得べからざるを思はしめると同時に、中央卸市場の設置に關しても、細心なる講究と周到なる計畫の行はるゝを必要とすと感せしめる次第である。

然るに我國に在つては、先年戰時中に於ける事情の變化は、終に多くの都市に小賣公設市場を設置するに至らしめ、今又物價調節問題に聯關して中央卸市場の設置計畫の熟しつゝあるを見るに至らしめた。

8) Sullivan, op. cit. p. 209-246.

我國に小賣公設市場が設けられてから、日尙ほ淺きが爲めに、其の成績を見定めることはまだ少し早いかも知れぬが、然し今日迄の實績では、不幸にして其の成績頗る顯著なりとは謂ひ得べからざる状態に在る。尤も成績といはるゝものは常に比較的のものだから、公設市場が全く無用のものだとは謂ひ得られぬけれども、其の設けられたる爲めに、大いに大都市に於ける食料品の需給状態が整へられ、食料品價格の公正なる決定を見るに至り、其の下落或は少くとも安定を見るに至つたとは斷言することが出来ぬ。其の有るは無きに優ると雖も、其の有るが爲めに大いに市民とそうして生産者とが利便を得たとは、謂ひ得べからざるを以て、其の實状とする。

然るに今又茲に中央卸市場設置の問題が表はれて來たのだが、此方は前に示す如く、小賣市場に比し業務が行はれ易く従て其の成績も舉り易いのみだから、少しく注意して其の計畫に大いなる缺點なきを期すれば、小賣市場よりも有效なる働を爲し得るであらう。然し之が設置に關しても亦、彼れ此れ障礙となる事故多く、其のよく好成绩を擧げんことの、決して容易の業にあらざるは、吳々も之を注意せなければならぬ。

仍て少しく實状に就いて、之が設置上の障礙となるべき諸事項を觀察して見るに、先づ第一の困難は、大都市には從來必ず事實上の中央食料品中央市場たる性質を有するものがあるが、此等と新設公設中央市場との關係を如何にすべきかといふことである。此の問題を片付けるに最も

簡單なる方法は、既存市場は之を全廢してしまふことであるが、それが果して能く行はれ得て、然かも都合よき結果を奏し得べきや否やは、大いなる疑問たらざるを得ない。何れにしても此道は大いなる冒險たるを失はないのであつて、全廢に伴ふ賠償其他の經費は多大なるに加へて、從來の取引を新たに一手に引受けて行ひ得べきだけの新設備を爲すには、その經費も亦頗る巨額に上るべきを思はなくはならぬ。然るに今それだけの經費を投じて中央市場を新設して、それで果してよく既存市場の全廢を實現し得るであらうか。現に存する卸市場を其形に於ては廢除し得るであらうけれども、又新たな形の下に新たな手段を以て行ふ取引に至つては、到底よく之を禁止し得べきものでなく、折角の企は有名無實に終ることゝなるを避け難いであらう。此事は現に之を我國に於て彼の三品取引などに關して盛に行はれつゝある市場外取引の實例に照し致ふれば、思半ばに過ぐるものがあるであらう。又前に示した巴里の中央市場に於て、元來場外賣買たりしものが、今や却つて中央市場の重鎮を爲す状態に照し考ふるも、其の決して杞憂に終らざるべきを信ずることが出来る。

然らば既存の卸市場は其儘に之を存置せしめ、新設の中央市場と此等のものと併存することゝなす道はどうかといふことが、次に問題となつて來る。仍て致ふるに、此道を探ることになれば、舊新兩様の市場の間には其の取扱ふ食料品の種類に於て分業が行はれることゝなるか、然らざれ

ば、兩者互に競争して同一様の業務を行ふこととなる外はない。然るに分業となる場合は實際には生じ難く、又分業たらしめては、折角中央市場を新設することの意味は大いに減殺せらるゝこととなる。そこで兩者は自然どうしても競争の地位に立たざるを得なくなる。所が扱て互に競争することとなれば、何しろ舊來の卸賣大市場は永い年月を経て實地の必要上自然的に發達したもののだから、其の地盤は十分に固まつて居り、生産者及び小賣商人との間の得意關係も十分緊密に出來上つて居り、それに其の市場に於て業を營む問屋や仲買人は何れも永年其業に在る其道の達人たる次第だから、そして此等の人々は其の折角築き上げた地位を捨て、新設市場に仲間入をする氣遣はないのだから、此等に對して新市場が克く競争に打勝ち得べき望は、よほど少いとせなければならぬ。何れにしても此の有力なる競争者を控えて居ることが、新市場の業務發展上の大障礙となるべきは疑なき所で、動もすれば其の競争の爲めに、新事業の失敗を招くに至るべきを思はなくてはならぬ。

次に問題となるものは經費の問題である。即ち新たに中央市場を設置し又其の業務を行ふに就いては、其の創設費と經營費とに莫大の資金を要する次第だが、其の經費は如何にして支辨せらるべきであるか。創設費に至つては之を低利資金及び公債に依て支辨することが出来るであらう。然しそれにしても其の利子負擔は些少でない。それに經營費を加へたるものと、固定資本の

銷却金を合すれば、年々の經費負擔は蓋しかなりの大いさのものたらざるを得ない。此の大いなる經費負擔は都市の經費として市民一般の負擔すべきものであるか。それは聊か不合理なるに加へて、都市の經費支辨力は中々其迄には及び得ない。然らば採るべき道は中央市場に於て之を自辨する外に存せないが、さすれば其の經費が取扱商品に分課せらるゝ結果として、其の商品の取扱數量が頗る大量ならざる限り、之が爲めに食料品の價格は餘り安價となり得ざるを思はなくてはならぬ。要するに此點は前の獨占か併存かの問題と關聯して、中央市場設置上の大困難たらざるを得ないのである。

次は市場設置の位置に關する問題だが、之はつまり集中か分散かの問題であつて、中央市場は讀んで字の如く中央に一個の制とするか、それとも地理上や經濟上の利便を考慮して二三ヶ所に分置するか、何れを採るべきかといふことである。併し此の問題は理論上では決まつたことであつて、集中制に若くはなく、集中統一されたればこそ、食料品の商品としての品質其他の統一もよく行はれ、又需要と供給とが多數多量に一所に集まる結果、價格の決定も公正に行はれ、又よく價格の統一的標準を與へ得ることゝなるのである。けれども此の問題は實地に於ては都市の大さ其の形狀等に從て緩和さるべきもので、止むを得ざる事情あり、統一制が却つて不便を生ずる恐ある限り、之を二ヶ所位ゐに分置することは已むを得ざるものがあるであらう。そしてそれは

主として交通運搬上の便否に由るものたるや言を俟たぬ。

次に考ふべきは、中央市場利用上の問題である。そして其の利用の如何に有効に行はるべきかは、主として小賣組織に關係する次第だから、必ず其の方面から問題を致へて見なければならぬ。我國現今の實狀を以てすれば、小賣組織の改善が充分有効に行はれざる限り、中央市場の利用は所詮充分なるを得ざるべきこと、之を信するに餘ある所なりとする。小賣が主として掛賣を以て行はれるやうでは、薄資の小賣商人は仲買人や問屋業者の金融を受けなければ業務を行ひ得ず、若し中央市場に依て此の掛賣的金融の道の塞がるゝあらば、小賣商人は到底中央市場を利用し得ざることゝなるを免れぬ。然るに中央市場が掛賣制を維持助長するやうでは、其の機能のよく發揮され得べきにあらざるは、論を俟たぬ所とする。

然し乍ら中央市場が公設さるゝに至れば、生産者は之に依て少からざる利便を得べきこと勿論で、彼等は生産物の委託販賣を依頼するに就いて、よく市場の問屋又は仲立業者を信任するを得ることゝなる。特に市場に行はるゝ糶賣が公の監督の下に公明正大に行はるゝことゝなるに於ては、生産者の受くる利便は蓋し鮮少なからぬであらう。現今我國に於ける卸賣組織上の大缺點は、都市の市場に問屋や仲買人の手に依て行はれる委託販賣に弊害の伴ひ易く、其の糶賣法の公正ならざることに存するを知る者は、公設中央市場の新設に依て、此點の改善さるゝあるを得ば、爲

めに大いなる利便の生ずべきを疑ひ得ない筈である。

右等諸點を併せ考へたる上に於て、扱て要するに中央市場設置の問題はと問はゞ、其の設置は可なるべきも、之を設置するに就いては、先づ一面に於て大いに小賣組織の改善を圖ること、次に(一)市場設置に要する固定資本と維持經營資本とを出來得る限り節約して、商品の負擔する費用を出來得る限り輕減すること、(二)市場に入る商人の選定を誤らず、市會議員などの緣故に依つて情實選定を絶對に爲さず、人物と技能本位の嚴正選定を行ふこと、(三)市場内外に於ける公の監督を嚴正にすること、(四)生産者の販賣組織を改善し、其間に出荷組合販賣組合生産組合等の普及發達を圖ることを以て、中央市場のよく成功し得べき條件と考へ、極力之を勵行し之を實現するに努むるを要すといふことにならざるを得ない。中に就いても、小賣組織の改善は最も重要な問題であつて、小賣市場の改善と併せて、決局は消費者の訓練といふことが、最大要務とならざるを得ないのである。(完)